

# 青少年期における同性愛に対する寛容性の形成

## ——性に関するメディアとコミュニケーションの役割——

日本女子体育大学 石原英樹

### 1 目的

本研究の目的は、社会的マイノリティーとしての同性愛者に対する寛容性の形成にメディアがどのような役割を果たしているのかを、青少年期に注目して明らかにすることである。

本研究に先立ち「世界価値観調査」を用いて、日本における同性愛への寛容性が高い属性の特定を試みたところ（石原 2012）、寛容性は常に男性よりも女性で高く、また寛容性の高まりは 1990 年代前半に若年女性、1990 年代後半に若年男性で起こり、2000 年代前半には中高年女性で拡大したことが分かったが、中高年男性における寛容性の拡大はわずかであった。男性については、高学歴者や管理職で一般的には寛容性が高いが、価値観などを統制すると、むしろ管理職で不寛容、低学歴層で寛容的な傾向を示すなど、欧米の知見とは異なる結果が見られた。そこで本研究では、寛容性の形成期と思われる青少年期の男女に分析対象を移し、これまで扱っていなかったメディア接触（山下・源氏田 1996）や交友関係の役割に着目した。

### 2 方法

本研究では「第 6 回青少年の性行動全国調査 (JASE05)」を用いる。調査は 2005 年 11 月～2006 年 3 月に実施され、本研究では高校生のデータ (N = 2,172, うち女性 1,083, 男性 1,089) のみを使用する。このデータから、同性愛への寛容性と性に関する情報源との関係を考察した。

### 3 結果

男女ともに、「同性との性的行為」への寛容性を高めていたのは、男女交際に関する情報入手先が「インターネット」の場合であった。女性のみ入手先が「コミックス」の場合には正の関係がみられた。また男性のみ、入手先が「先輩」の場合負の関係がみられた。女性の場合には、性教育として「妊娠」や「自慰」といった身体的な知識のほか、「男女平等」について学んでいると同性愛への容認度が増す傾向が示された。

### 4 結論

接触するメディアにおいて同性愛の扱われ方が異なることが示唆される。またそれが男女によっても異なる。同性間でのコミュニケーションが役割を果たしている可能性もある。また性教育の影響については、受講の有無だけでなく、その中でジェンダーがどのようなイメージでとらえられていたのかが影響する可能性が示唆された。

### 文献

- 石原英樹 2012 「日本における同性愛に対する寛容性の拡大：「世界価値観調査」から探るメカニズム」『相関社会科学』22:23-41.
- 石原英樹 2013 「同性愛に対する寛容性の形成：高校生の性に関する情報源の役割」『日本女子体育大学紀要』43:1-9.
- 山下玲子, 源氏田憲一 1996 「同性愛者に対する態度についての一研究：男女差, メディア接触量を中心として」『一橋研究』21(2):163-177.